

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

阿 部 晶 子

今 井 智 子

石 坂 郁 代

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 紀 子

倉 智 雅 子

佐 藤 睦 子

椎 名 英 貴

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

中 村 光 一

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝 木 準

日増しに木々の緑が濃くなる爽やかな季節を迎えましたが、ロシア・ウクライナ戦争は社会に暗い影を落としています。人間は過去の経験を未来に活かせることを信じて、早く平和で平穏な日々が訪れることを祈りたいと思います。

本誌は創刊から18年が経過し、言語聴覚障害の基礎と臨床に関する論文を多数掲載してきました。その掲載論文の動向は本誌の第18巻2号(2021年)で紹介しましたが、今回は米国のASHAが発行しているジャーナルの論文動向と比較してみたいと思います。ASHAはJSLHR, AJSLP, LSHLLを発行しており、これらの論文の2008年～2010年の動向がAJSLP(2020年)に報告されています。これを見ますと、米国で論文数が突出して多い領域は言語発達障害と失語症であり、次いで運動障害性構音障害、音声障害、発語失行と続き、嚥下障害や認知コミュニケーション障害に関する論文は少ない傾向です。これを本誌の2013年～2020年の原著論文と比較してみますと、本誌で最も多くの論文が掲載された領域は失語・高次脳機能障害で、次いで言語発達障害と摂食嚥下障害であり、発声発語障害はそう多くありません。論文内容を見ますと、米国では評価・治療に関する論文が多く、わが国では症状・障害メカニズムに関する論文が多いといえます。このように米国とわが国では研究動向に違いがみられますが、これは両国の臨床・研究の環境や特徴、また言語聴覚障害学の発展経過を反映していると思われ、非常に興味深く感じます。

さて、今号には発声発語臨床・研究に造詣が深い椎名英貴先生と城本修先生による総説が掲載されています。両先生はこの領域の臨床を牽引されてきた方であり、読者は長年の経験に基づくこれらの論文から多くのことを学べるものと思います。原著論文は言語発達障害、認知症、嚥下障害に関する4編で、貴重な知見が報告されています。このほか構音障害の症例報告、失語症者向け意思疎通支援者派遣をテーマとした短報、COVID-19禍の臨床実習に関する報告が掲載されており、いずれも充実した内容で今後の進展が期待されます。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第19巻 第2号) 2022年6月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2022年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料販売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2022, Printed in Japan

制作・販売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)